天然大理石の美と風格を忠実に再現—充実のニューライフを演出していただけます。

FANTASTIC LIFE WITH TOPLA

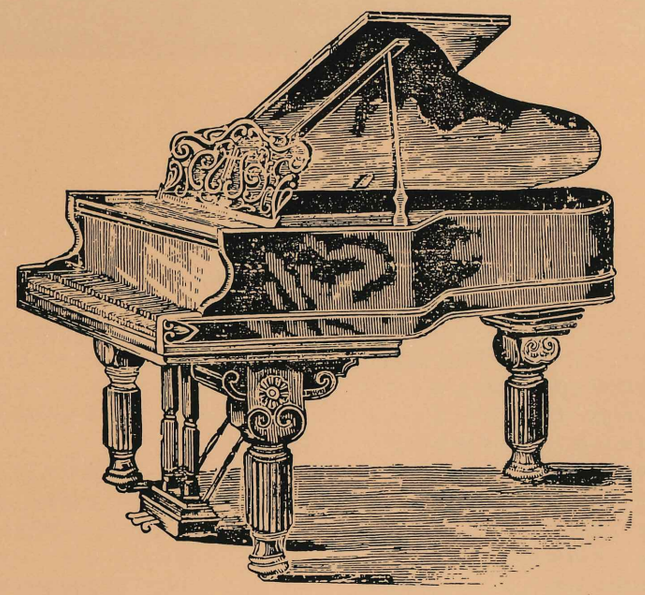
暮らしと 水とのふれあいを より豊かに

TOPLA

代表取締役社長　中　川　泰　治
(昭和19年学部卒)

東プラ株式会社　本　社／大阪市北区西天満5丁目1番9号 伊勢町東洋ビル　TEL大阪06(363)3041代表 〒530
営業所／大阪・東京・名古屋・札幌・福岡・横浜・大宮・神戸

南澤会合唱団
第３回演奏会



1980. 3. 8 (土)　PM6:30

津村別院 北御堂ホール

南澪会合唱団のこと

「南澪会」（なんれいかい）は、大阪商科大学・大阪市立大学グリークラブのＯＢで組織している団体です。母校が大阪（市章となっている澪一みおつくし）の南に位置していることから、この名前がつけられました。その文字といい、読みといい、音楽団体としての連想が浮かびにくい感がないでもありませんが、私たちは、この呼び名に限りない愛着を抱いています。

会員総数 460名余、その年齢層は80才を越える超ＯＢから今春卒業する新人まで、在住地も北は北海道から南は九州までのほか海外にまで分布し、皆それぞれに社会各界・各層で活躍しています。まことに広汎にして多彩な構成であるといえるでしょう。

80年代の幕開けにあたる本年、母校大阪市立大学は、旧制以来の歴史を含め創学 100周年を迎えます。私たち南澪会にとっても40年の歩みをしるす一つの節目に立っています。昨年来、それまでの活動の状態を省みて、この記念すべき年に当面の照準をあて、会組織の強化と合唱活動の充実をめざす計画を進めてきました。すなわち、昨年５月、戦後はじめての企てとして全会員に呼びかけて、総会・懇親会を母校杉本町学舎で開催し、150名の参加を得て、本館時計台の前庭で野外円遊パーティーをくりひろげ、盛大な成功を収めました。会本来の目的である合唱活動の方も、南澪会を母体とする合唱団を結成しました。

昨年のこうした基礎固めから、今年はさらに大きな飛躍をめざして始動します。その第一歩が本日の演奏会です。今秋11月２日(日)には、大阪市立労働会館ピロティー大ホールを借り切り、市大 100周年記念協賛行事として市民音楽祭を開きます。この構想は、私たち南澪会の発意によるもので、市大の現役・ＯＢの音楽サークルを中心に、市民参加の形で行う画期的大イベントです。南澪会合唱団がその中核的役割を担って、着々とその計画を進めつつあります。

南澪会は、このように合唱活動を主体としながら、他方、毎年総会を開き、ゴルフ・コンペを行うなど幅広い行事を通じて、会員相互の親睦を深め、生活に潤いをもたらす糧を求めるとともに、商大・市大のＯＢとして社会に羽ばたき、大らかな前進を遂げようとするものであります。

ごあいさつ

南澪会会長 **中川泰治**
南澪会合唱団幹事長 **吉川恵之助**

本日は、南澪会合唱団第３回演奏会にお越しいただき、心から歓迎と感謝の意を捧げます。

私たち南澪会合唱団は、昨年３月、組織の再編を行って再発足しました。これは、南澪会会員の中でほぼ継続的に合唱活動に参加し得る者でメンバーを固め、一人ひとりがその責任を確め合って効果的に運営していこうという主旨によるものです。それから１年が経ち、ささやかではありますが、ここに練習の成果を発表する機会をもち得ましたことは、私たちの大きな喜びであります。

南澪会合唱団には、約50名の会員が参加しています。戦前のＯＢから今春卒業の新人まで平均年齢は40才前後といったところでしょうか。その職業も、母体の南澪会の幅広さをそのまま凝縮した感じで、自営のオーナーをはじめとして、商社マン・銀行マン・学校の先生・技術畑その他もろもろの領域にわたっています。ただ一つの共通点は、学生時代に魅せられたあの何とも表現しがたい男声合唱独特のハーモニーの味が忘れられず、それを味わうことに無上の快楽を求めようとする極めて単純な行為に熱中しているということであります。しかし、皆それぞれに生活のかかっている自己の職務に忠実であるために、メンバー全員が毎回練習に顔（声？）を合わせるにはかなりの制約があり、練習不足の観は否めません。ステージに立てるのも全メンバーの半数ぐらいです。したがって、細かい技術よりも、ハーモニーを肌で感じとるというような豊かな音楽性を表現することに心掛けています。

南澪会単独の演奏会は、記録をひもとけば今回が第３回にあたります（第１回は昭和15年６月11日・大阪ガスビルホール、第２回は昭和39年１月18日・心斎橋日立サルーンホール)。 今回は、10数年来これまでになかった盛り上がりを大きな支えとし、今後年１回ぐらいの定期演奏会として発展させる基礎になれば……と、メンバー一同ヤル気満々であります。

私たちの僚友である大阪市大女声合唱団ＯＧで組織されている「みおぎ会」の元お嬢さんの面々が、賛助出演でステージに彩りを添えていただきます。

音楽ほど人の心を豊かにし、安らぎを与えてくれるものはありません。心に深く残る何かを本日のステージから感じとっていただければ、これに過ぐる喜びはありません。どうか最後までお聞きいただき、暖かいご声援とご鞭撻を賜わりますようお願いいたします。

PROGRAM

Ⅰ. ロシア民謡

指揮　宮内　泰

1. 母なるヴォルガの傍にて
2. 牧場で
3. 晩鐘
4. 十二人の盗賊
5. 緋色のサラファン
6. 白樺

Ⅱ. 男声合唱組曲「山に祈る」

構成・作詩・作曲　清水　脩
指揮　原田佳晃
ピアノ伴奏　内田　恵
ナレーター　三井洋子

山の歌
リュックサックの歌
山小屋の夜
山を憶う
吹雪の歌
お母さんごめんなさい

—INTERMISSION—

Ⅲ. 賛助出演「みおぎ会」

女声合唱組曲「お台所のうた」

作詩　高田敏子
作曲　岩河三郎
指揮　山岸清太郎
ピアノ伴奏　高田和男

1. 電気ガマ
2. おとうふやさん
3. ぞうきんがけ
4. 買いもの

Ⅳ. Magnificat: Ⅳ, Toni

マニフィカート（第4旋法による）

作曲　Giovanni Pierluigi da Palestrina
指揮　小関光男

Ⅴ. 黒人霊歌

指揮　栗山　功

1. Deep River　編曲　福永陽一郎
2. This ol' hammer !　編曲　福永陽一郎
3. Let My People Go　編曲　TOM SCOTT
4. Soon-a will be done　編曲　福永陽一郎

南澪会合唱団出演者名簿

●第1テノール

村上守男(31.商)　新　栄一郎(46.商)
斉藤三朗(34.経)　宮内　泰(51.理)
原田佳晃(37.工)
尾崎　納(44.商)

●第2テノール

久野利夫(30.文)　白井清貴(51.商)
今西弘一(32.経)　吉田教昭(53.経)
熊代厚生(37.法)　加来良行(54.文)
大田徳隆(42.経)　神代一徳(54.文)

●バリトン

石井欽三(26.高商)　栗山　功(33.経)
吉川恵之助(28.経)　村上　勇(33.経)
上田　稔(29.文)　米田直也(35.法)
山内荘作(32.商)　藤田雅大(51.理)

●バス

西田　新(34.理工)　安井　永(44.商)
小関光男(38.経)　和田昭夫(44.商)
三栖　隆(39.法)　赤崎弘平(44.工)
水島義次(43.文)　扇田　豊(50.法)

―曲目解説―

Ⅰ．ロシア民謡

合唱曲としてとりあげられるロシア民謡の形態は、15世紀頃、ドン河流域に住みついたコサックの生活の中に生まれたものといわれています。広大な、荒々しい原野の中で、生活の苦しみ、よろこびが、それまでの宗教的な多声合唱の中に、会話風に、物語風にとり入れられ、歌い上げられてロシア民謡の母体となっていったものだといわれています。長い厳しい冬の歌、早春の太陽を浴び、緑の牧場で唱う踊りの歌、そして暴政に苦しんだ民族の長い歴史が物語となって歌い込まれているのです。私達はロシア民謡の合唱において、初めて男声合唱の魅力を知り、長調と短調を知り、人間の生の声のハーモニーを知り得たと思っています。そこには歴史の違い、民族の違いがあるでしょうが、私達が心の底で感じ、飾らない、生の声で合唱する時、国、民族、歴史を超えた人類共通の音楽の喜びが、私達のものになるのではないでしょうか。

Ⅱ．合唱組曲「山に祈る」

昭和34年秋、長野県警察本部では、山での遭難の頻発に業をにやして、遭難者の遺族たちの手記を集めた「山に祈る」という小冊子を発行して、遭難防止を訴えた。ダーク・ダックスは、その巻頭に載った上智大学山岳部の飯塚揚一君の遭難を同君の残した日誌と同君の母親の手記によって、一篇の合唱組曲をつくる企画をたて、清水氏がその構成、作詞、作曲を依頼されたものである。

「なぜ、なぜ山に登るのか」

「山が、そこにあるから」

この有名な対話は、昔も今も変わらず続いている。それは酸素ボンベもかつぎ、新鋭装備と物量で山に挑戦する風潮に、一部の批判はあるものの、山と人間のドラマにさまざまなものがあるからなのだろう。山は

“怒れば巨人となって
人間の智恵を打ち挫き
ほほえめば乙女となって
汚れない愛を降りそそぐ”

現実の社会で種々な体験をしてこられた面々が、今日のステージでどのように、この山への思慕を表現されるか楽しみである。不幸にして山で逝かれた方々の霊をなぐさめるとともに新たな遭難防止を念じつつ……。（原田佳晃）

Ⅲ．女声合唱組曲「お台所のうた」

この曲はママさんの毎日の生活体験なくしては歌いあげることができにくいのではないかと思われる詩であり曲であります。

「電気ガマ」の出現におどろき眠っている間にご飯が炊けるなんて！これでいいのかしら？」と自分自身に問いかけるつつましい奥さん。そしてその便利さと、しあわせを遠い山奥の小さな村のさびしい台所で働く人々の上にも与えて下さいと祈る。

トランペットのようなラッパを吹いて通り過ぎる「おとうふやさん」。それを呼ぶ声が夕空に高くひびいて、そして消えてゆく。あわただしく過ぎてゆく時の流れの中でふとふり返え「ひととき」。なにげない生活の切れ目で、はっとするような人間の感情をこの暖かい詩と軽快なリズムにのせて表現したいものです。

Ⅳ．Magnificat：Ⅳ．Toni　マニフィカート（4旋法による）

マニフィカートとは、夕方のお勤めである晩課で必ず歌われる聖母のためのカンティフム（歌）のことです。その冒頭《Magnificat あがめたてまつる》で始まるので、それをとってマニフィカートと普通呼ばれています。そして古くから多くの音楽家によってパレストリーナも37曲にもおよぶマニフィカートを残しています。中でもこの曲は同声4部という珍しい構成をとっております。歌詞はルカ伝第1章の内12の行からなっていますが、1行おきにグレゴリオ聖歌が歌われ、偶数行のみ多声に作曲されています。

マニフィカート

- 私の魂は主をほめたたえ
  私の精神はよろこびおどった
  私の救いである神において
- 神がその下女の賤しさをみそなわしたもう
  だから、みよ、このために私を幸せなものと
  すべての世代は言うだろう
  力あるお方が私に大いなることをなしたもう
  たから
  そのみ名は聖であり
- その慈悲は世代から世代にわたって
- そのお方をおそれる人たちに与えられる
  その腕にある権力をあらわし
  自分の心の思いでたかぶる人達を追い散らし
- 権力あるものをその地位からおろし
- 謙遜なものをたかめ
  飢えている人達をよいものでみたし
  富めるものを何も持たずに去らしめたもうた
- その子イスラエルを受入れたもうた
- みずからの慈悲を忘れることなく
  われらの先祖に語られたように
  アブラハムやその子孫に代々わたって
  （慈悲をかけたもう）
- 父と子の聖霊に栄光あれ
  始めにあったように今もまたつねに
  代々にわたって
  アーメン

（小関光男）

- 印の行……グレゴリオ聖歌

Ⅴ．黒人霊歌

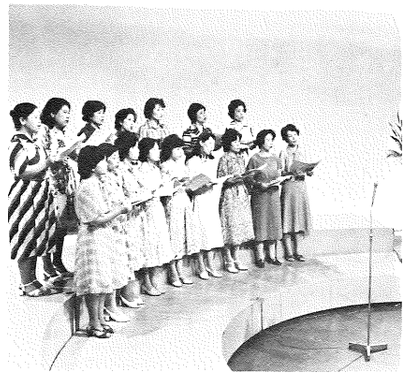
深い川を越えて私たちの天国へ行こう（Deep River）ジョン・ヘンリーは死に、ハンマーはもう何も語らない（This ol' hammer！）。私たちを天国へ行かせて下さい（Let My People Go）。この苦悩も、もうすぐ終るでしょう（Soon-a will be done）……

もともとアフリカから奴隷として、連れてこられた当時の素朴な救いと、祈りの霊歌の原形からは遠く離れた形で現在演奏されている男声合唱ではあるが、その魂の奥底にある自由の国、そこは天国である。死んで早くそこへ行こう。神に救いを求め、共に安息の地を得ようという魂の歌であることに違いはない。

信仰からくる深い喜びの歌にただよう哀感、これらが今日なお多くの人の魂に触れ、深い感動を与える所以である。単なる宗教歌でないのは、黒人霊歌がそうした黒人達の労働歌であり、哀歌であり、また、神への讃歌であり、すなわち彼等の生活そのものを歌った歌、怒り、悲歎、絶望がその底に秘められているからであろう。私達がこれらを唱うことによって、練習を通じ、より深い感動と共感を得ることができるようになった時、黒人霊歌は単なる一民族のものでなく、全人類としての遺産となるのではないだろうか。

● PROFILE

「みおぎ会」



私達は、昭和42年頃まであった市大女声合唱団のＯＧによって結成された合唱団で、大阪市章である「みおつくし」と同義の澪木―みおぎ―という語を会の名称としました。

共に唱った仲間が「また何時の日か」集ってコーラスする日の来ることを夢みながら20年。子育てから解放される時代を待ちながらも細々と、1年に1～2回。月に1回。数人ででも声を出す機会をもち、夢を温めてきました。それがようやく3年程前より仕事、家事と一人二役・三役の忙しいメンバーや、主婦専業も含めて、時間的・距離的な無理を背負いながらも、合唱活動を始めました。毎年1回は、テレビ、ラジオなど発表する機会を作り、月2回の練習に駆け込んで唱い、練習後数分で「くもの子」の散る如く、夕食を待つ家族の下に帰らねばならないような現状で、年1回の合宿以外は旧交を温める暇もない状態ですが、私達は唱い続けていくつもりです。

○内田　恵（ピアノ）

現在、大阪音楽大学・ピアノ専攻・4回生。山田忍、永井譲、構井初美、各氏に師事、1978年、大阪市立大学交響楽団とグリーグのピアノ協奏曲を協演。

○三井洋子（ナレーター）

宝塚歌劇団、ABC放送劇団を経て現在フリー、NHKテレビ「けったいな人々」「風見鶏」に出演、現在NHK教育テレビ「働くおじさん」に出演中。

○臼村治子（司　会）

元朝日放送アナウンサー、現在フリーアナウンサーとして、司会、講演、ラジオ番組に活躍中。大阪市成人学校講師。

NANREIKAI. CHOR CONCERT 3th

1980年3月8日(土) 6:00PM開場 6:30PM開演

津村別院 北御堂ホール（地下鉄御堂筋線本町下車北50米）

南澪会合唱団演奏会

¥800